

## 兵庫大会日程

### 1 公開授業 (10:00~10:50)

- ① 【歴史的分野】伊丹市立文化会館 いたみホール  
 伊丹市立北中学校 教諭 櫻井真理子  
 伊丹市立松崎中学校 教諭 中川 彰布、古城門 克己
- ② 【地理的分野】宝塚市立南ひばりガ丘中学校  
 宝塚市立宝塚第一中学校 教諭 對中 美香  
 宝塚市立南ひばりガ丘中学校 教諭 山本 悠
- ③ 【公民的分野】尼崎市立南武庫之荘中学校  
 尼崎市立南武庫之荘中学校 教諭 尾之内 潤  
 尼崎市立南武庫之荘中学校 教諭 真島 清行

### 2 全体会 (13:30~16:30) -いたみホール-

- 総合司会 現地実行委員会幹事 中山 真也
- (1) 開会式 (13:30~14:00)
- ① 開会の言葉 兵庫大会現地実行委員会 委員長 長谷川則光
- ② あいさつ 近畿中学校社会科教育研究会 会長 丹松美代志  
 兵庫県中学校教育研究会社会部会 会長 野田 寛
- ③ 来賓祝辞 全国中学校社会科教育研究会 会長 有吉 保和  
 兵庫県教育委員会事務局義務教育課 課長 開 敏之  
 伊丹市教育委員会 教育長 佐藤由紀子
- ④ 来賓紹介および祝電披露  
 兵庫大会現地実行委員会 委員長 長谷川則光
- (2) 基調提案 (14:00~14:15)  
 兵庫大会研究委員会 委員長 投石 浩稔
- (3) 指導助言 (14:15~14:40)  
 兵庫県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 三好 一成
- (4) シンポジウム (14:50~16:20)  
 『プリント穴埋め学習をどう克服するか』  
 コーディネーター 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 米田 豊  
 シンポジスト 尼崎市立南武庫之荘中学校 教諭 尾之内 潤  
 シンポジスト 伊丹市立東中学校 教諭 多田 英稔  
 シンポジスト 宝塚市立長尾中学校 教諭 下野 剛嗣
- (5) 閉会式 (16:20~16:30)
- ① 次年度開催地あいさつ  
 滋賀県中学校教育研究会社会科部会 部会長 高田 満彦
- ② 閉会の言葉 兵庫大会現地実行委員会 副委員長 廣田 稔

## 地理的分野 学習指導案

日時	平成22(2010)年11月12日(金)
学級	宝塚市立宝塚第一中学校 1年1組 37名
場所	宝塚市立南ひばりガ丘中学校 南館2階 学習室
指導者	宝塚市立宝塚第一中学校 教諭 對中 美香

### 1 単元名 「身近な地域の調査」

#### 2 単元を学ぶにあたって

##### (1) 単元観

今回の改定では、世界と日本の諸地域の地域的特色を学んだ後に「身近な地域の調査」を学習することになっている。つまり、基礎的・基本的な知識・技能を習得した上で、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成し、課題解決する。そのようにする中で、学習内容や学習活動を段階的に発展・深化できる。地図を身近な地域の資料として活用することにより、改定において重要視されている地図の読図や作図などの技能を高めることができる。身近な地域に理解と関心を深め、地域の課題を見つけ、表現する中で、思考力・判断力・表現力の基盤となる言語力を育成するための言語活動を充実させることができる。

また、「身近な地域の調査」を学習することで、生徒が生活している地域に対する理解と関心を深め、その発展に努力しようとする態度を育てることは、教育基本法や学校教育法に明記された「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」(社会参画)につながる。

##### (2) 研究主題・副主題との関わり

研究主題は、「自ら見つけ、学び、わかる喜びを ～資料(情報)活用の技能を高める～」である。地理的分野では、資料を自分の地域の地形図を中心に、新旧の地形図を比較させることにより、宝塚の課題を見つけ、課題に対する仮説の検証の結果や地形図の変化などから、宝塚の将来について自分なりの考えを持たせたいと考えている。

第1時では、宝塚について考えるために、宝塚とはどのような特徴を持っている地域であるか、また宝塚について調べていくためにはどうすればよいのかという方法を習得させる。第2時・第3時では、地形図の読み取りをする上で必要な技能(地図記号や縮尺の基本)を習得させる。第4時(本時)では、3枚の地形図を比べることで、宝塚の地形上の変化を読み取らせる。さらにその上で、なぜ宝塚の人口は増えているのかという課題の仮説を立て、仮説を検証するためにどのようにすればよいのか考えさせる。第5時では、宝塚が魅力あふれ、人口が増えるためにはどうすればよいのか自分なりの考えをもたせようと考えている。

(3) 学習指導要領の身近な地域の調査（平成20年3月告示）

身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて、地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身につけさせる。

(4) 学習指導要領での身近な地域の調査の内容の取扱い（平成20年3月告示）

学校所在地の事情をふまえて観察や調査を指導計画に位置づけ実施すること。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活動の技能を高めるようにすること。また、観察や調査の結果をまとめる際には、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。なお、学習の効果を高めることができる場合には、内容(2)のウの中の学校所在地をふくむ地域の学習と結びつけて扱ってもよいこととする。

### 3 単元の観点別目標

① 社会的事象への関心・意欲・態度

- ・宝塚について知っていること、調べたことを出し合い、宝塚についての興味・関心を深める。

② 社会的な思考・判断

- ・「なぜ宝塚は人口が増えているのか？」という問いに対する仮説を文章で表現し、仮説を検証するためにはどうすればよいか考えることができる。
- ・宝塚の地形の特徴（田が減って住宅地が増えている）や仮説の検証、身近な現象をふまえ、宝塚の人口が今後増えるか減るか理由もふまえて考え、表現することができる。
- ・温泉や歌劇、手塚治虫記念館があるという観光地であるという他に、自然環境が比較的残っており、さらにJR・阪急が通っており通勤に便利な住宅地であるという宝塚の魅力を文章で表現することができる。
- ・宝塚の人口が今後も増えるためには、どうすればよいか自分なりの考えを表現することができる。

③ 資料活用の技能・表現

- ・宝塚について各自テーマ（歴史、観光、農業など）を決めて、調べ、レポートにまとめることができる。
- ・地形図は、国土地理院が発行していること、上が北であること、地図記号（田や植生界など）のそれぞれの意味を理解する。
- ・地形図の決まり（縮尺、等高線）を理解し、2万5000分の1の地形図と5万分の1の地形図を見分けることができ、また地形図から実際の距離を測ることができる。
- ・宝塚の3枚の新旧の地形図を地図記号などから推測して、古い順番に並び替え、その理由（田が減っている、住宅地が増えている、文字が逆であるなど）を文章で説明することができる。
- ・地形図の決まり（地図記号や縮尺、等高線）を理解し、地形図から地域の特色を読み取ることができる。

④ 社会的事象についての知識・理解

- ・地域調べの視点や、調べ方、まとめかたの方法を理解する。
- ・宝塚について知っていること（宝塚温泉や歌劇、中山寺などの観光地があることなど）を説明することができる。

4 生徒の実態

授業の配分上、週1時間だけ歴史の授業を行っている。歴史の授業では、1時間の中に1つは、「なぜ？」と考えさせ、「自分はこう思う」とノートに意見を書かせる授業を目指している。また、低学力の子にもわかるように、歴史こぼれ話なども多くできるように目指している。意欲が高く、特にノートを工夫してとろうとする生徒も多い。しかし、そのためノートをとることに集中しすぎて、話を聞いていないのではないかとと思われる場面が見られる。

こちらが「手を挙げなさい」と指示する前から手を挙げる生徒がいる一方で、基礎的な学力が身につけていない生徒が多い。そのため、毎時間ごと（今回のようにノートを集めない日は行わない時があるが）学習内容の定着をはかって、授業開始前には小テストと前回の復習、授業終了時にはまとめのプリントを毎回行っている。テストでは、学力の低い子でもある程度点数を取れるものを作りたいと思い、まとめのプリントから一部そのままテストに出している。そうすることで「できた」と感じ、社会科（歴史）の学習に意欲的になってほしいと考えている。

「調べる」学習として現地調査なども行いたい。しかし、学年全体の生徒の実情を考えると現地調査は望ましいとは言えない。また、コンピュータや図書室などを使った調べ学習も本来であれば行いたい。しかし、夏休みの宿題（宝塚の歴史、歌劇、山本の植木など自分の興味のあるテーマをレポートとしてまとめる）としている。また、小学校時代にも「わたしたちのまち宝塚」で多少なりとも学習をしている。そのため、宝塚については、ある程度の興味・関心、および知識はあると考えられる。

5 単元の指導計画

段階	おもな学習内容	学習活動など
1	宝塚について調査方法を知る	<ul style="list-style-type: none"><li>・宝塚について知っていることを3分間でノートに書き出す。</li><li>・宝塚について知っていることや調べたことを出し合い宝塚についての興味・関心を深める。</li><li>・地域調べの視点や、調べ方、まとめかたの方法を理解する。</li></ul>
2	地形図に親しむ	<ul style="list-style-type: none"><li>・現在の地形図を配付し、自分の中学校（宝塚第一中学校）と自宅を探し出す。</li><li>・地形図から地図記号を抜き出す。</li><li>・地形図（国土地理院発行、上が北など）や地図記号（田や植生界）について理解する。</li></ul>
3	地形図の約束	<ul style="list-style-type: none"><li>・縮尺（25000分の1と50000分の1の地形図）の違いを理解し、地形図から実際の距離を測る方法を学習する。</li><li>・等高線について学習する。</li></ul>

4 (本時)	宝塚の地形図	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 宝塚の新旧3枚の地形図を並び替え、理由をノートに書き出す。</li> <li>• 地形図で増えたものや減ったものを考えることにより、宝塚は田が減って住宅地になっていったことに気づく。</li> <li>• 宝塚の新旧の人口の数をすることにより、宝塚の人口が増えていることを確認する。</li> <li>• 「なぜ宝塚の人口は増えているのか？」という問いに対する仮説を文章で表現し、検証する。</li> <li>• 宝塚の人口は今後増えるか減るか、仮説の検証や地形図で学んだことを活用して答えを文章で表現する。</li> </ul>
5	宝塚の魅力とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 宝塚は温泉や歌劇があるということの他に、自然環境が比較的残っており、通勤に便利な住宅地としても魅力があることを理解する。</li> <li>• 宝塚は阪急電鉄が通ったことにより住宅地が増えていき発展していたことを理解する。</li> <li>• 「あなたはどのような場所に住みたいと思うか？」という質問の答えをノートに書く。</li> <li>• 自分が住みたいと思っている場所に宝塚は近いかどうか判断し、ノートにその理由を書く。</li> <li>• 宝塚の人口が今後も増えるためには、どうすればよいか自分なりの考えを表現する。</li> </ul>

## 6 本時の展開

### (1) 本時の主題

宝塚の新旧3つの地形図を並び替えわかった宝塚の土地利用の変化（田が減って住宅地が増えている）や「宝塚の人口はなぜずっと増えているのか」という問いに対する仮説の検証結果を活用して、「宝塚の人口が今後増えるか減るか」について文章で表現する。

### (2) 本時のねらい

- ① 宝塚の3枚の新旧の地形図を地図記号などから、古い順番に並び替え、その理由（田が減っている、住宅地が増えている、文字の書き方が逆であるなど）を文章で説明することができる。【資料活用の技能・表現】
- ② 「なぜ宝塚は人口が増えているのか？」という問いに対する仮説を文章で表現し、仮説を検証するためにはどのような資料を選び、決定すればよいか考えることができる。【資料活用の技能・表現】
- ③ 宝塚の土地利用の変化（田が減って住宅地が増えている）や「宝塚の人口はなぜずっと増えているのか」という問いに対する仮説の検証結果を活用して、「宝塚の人口が今後増えるか減るか」について文章で表現する。【社会的な思考・判断】

### (3) 授業仮説

- ① 住宅地の増加に注目させれば、住宅地の地図記号（前回までに地図記号を学習させている）が増えているので、発行された年の違う3枚の地形図を時代順に並び替えることができるであろう。
- ② 地形図と統計資料を比較すれば、人口の増加をつかみとることができるであろう。
- ③ 地形図上で一番増えているもの、一番減っているものを、色を塗っている地形図を見ることで、田がどのようにどれくらい減ったのか、また、住宅地がどのように、どれくらい増えているのかを面積としてつかみとることができるであろう。
- ④ 宝塚の人口はなぜ増えているのかと考えさせることにより、宝塚が持っている地理的魅力（自然が残っている、大阪に近い）について文章で表現することができるであろう。
- ⑤ 今まで学習したことを活用して、宝塚の人口は増えるのか減るのかを考えさせることで、「ここは田んぼだから、もしかしたら住宅地に変わるかもしれない」などと自分の生活と結びつけて考えられるようになるであろう。

### (4) 教材名

- ・「新編 新しい社会 地理」（東京書籍）
- ・「新編 中学校社会地図 初訂版」（帝国書院）
- ・「作業する資料集 アクティブ総合地理Ⅰ・Ⅱ」（浜島書店）
- ・2万5000分の1地形図「伊丹」平成19年「宝塚」平成17年（国土地理院）
- ・日本図誌体系近畿1（昭和7年、昭和44年）
- ・「中学社会・学力補強5分間プリント」（東京教育技術研究所）
- ・宝塚市統計書
- ・広報たからづか

### (5) 学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
ベル着点検		
小テスト		・時間約3分。 ・できたらファイルにとじさせて隣と交換させる。
本時の学習内容の確認	・黒板に本時の目標を記入。	・前回のまとめのプリントの返却。
前回の復習		
3枚の地形図を並び替え、その根拠を考える。	・3枚の地形図を配布。 発問「今配った3枚の地形図を、古いほうから順番にならべ、その理由をノートに書きましょう。」	【評価：技能・表現】 ・宝塚の地形図を地図記号などから、古い順番に並び替え、その理由を文章で表現することができる。 ●答え：C→A→B Cは昭和7年、Aは昭和44年、Bは平成17年である。

<p>地形図で増えたものや減ったものを考えることにより、宝塚は田が減って住宅地に変わっていったことに気づく。</p>	<p>発問「それでは、C→A→Bと時代が変わるにつれ、何が一番減ったのか書きましょう。」</p> <p>発問「それでは、C→A→Bと時代が変わるにつれ、何が一番増えたのか書きましょう。」</p> <p>発問「では、一番多く減ったものは、どれくらい減っていったのか答えましょう。」</p> <p>発問「つまり、宝塚では何が減って、何が増えたと言えますか？ノートに書きましょう。」</p> <p>発問「では、一番多く増えたものは、どれくらい増えていったのか答えましょう。」</p> <p>発問「つまり、宝塚では何が減って、何が増えたと言えますか。ノートに書きましょう。」</p> <p>発問「ではこのように住宅地が増えていっているということは、何が増えていると言えますか？」</p>	<p>●答え：田・畑・林</p> <p>●答え：住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何倍という形で答える。</li> <li>・拡大し、色塗りしたものを見せる。</li> </ul> <p>●答え 減ったもの…田 増えたもの…住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何倍という形で答える。</li> <li>・拡大し、色塗りしたものを見せる。</li> </ul> <p>●答え：田・畑・森林が減って住宅地が増えた。</p> <p>●答え：人口</p>
<p>宝塚の新旧の人口の数を知ることにより、宝塚の人口が増えていることを確認する。</p>	<p>発問「では、君たちが生まれた年（平成9年）の宝塚の人口はどれくらいだと思いますか？」</p> <p>①10万6000人 ②20万6000人 ③30万6000人</p> <p>「広報たからづかを調べると、今現在の宝塚の人口は、■人です。つまり、宝塚の人口は、君たちがうまれてからずっと増えています。」</p>	<p>●答え：②20万5993人</p>
<p>「宝塚の人口はなぜ増えているのか？」という問いに対する仮説を文章で表現する。</p>	<p>発問「宝塚は君たちが生まれてからずっと人口が増えているが、それはなぜかノートに書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表させる。</li> </ul>	<p>◆予想される生徒の答え</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. お年寄りが長生きしているから。</li> <li>2. 子どもの数が増えているから。</li> <li>3. マンションが増えているから。</li> <li>4. 引っ越ししてきた人が多い。</li> </ol> <p>【評価：思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ宝塚は人口が増えているのかという問いに対する仮説を文章で表現できる。</li> </ul>

仮説の検証	発問「今の意見が正しいかどうか確かめるためには、どのように調べればよいでしょうか？では、1から考えます。」	◆予想される生徒の答え 1. お年寄りの寿命の変化を調べる。 2. 子どもの数がどれだけ増えたか調べる。 →一中のクラス数の変化を調べる。 3. マンションがどれだけ増えたか調べる。 →田がどれだけ減ったかを調べる。 4. 引っ越してきた人数を調べる。 →宝塚以外から転入して来た生徒がどれくらいいるか手を挙げさせる。 →特に谷口町、小林2丁目、仁川北2・3丁目、仁川高丸3丁目は、約1.5倍も増えている。
宝塚の人口は増えるか減るか、仮説の検証や地形図で学んだことを活用して答えを文章で表現する。	指示「今後宝塚の人口は増えるか減るのか、自分の予想を理由も合わせて、ノートに書きましょう。」	【評価：思考・判断】 ・宝塚の地形の特徴や仮説の検証をふまえ、宝塚の人口が今後増えるか減るか理由もふまえて考えることができる。
次回の予告	「宝塚の魅力とはどのようなものか考えていきましょう。」	
ノート回収		

#### (6) 評価

- 宝塚の3枚の新旧の地形図を地図記号などから、古い順番に並び替え、その理由（田が減っている、住宅地が増えている、文字が逆であるなど）を文章で説明することができる。【資料活用の技能・表現】

- A：順番に並び替え、根拠を持って説明することができる。
- B：順番に並び替え、理由を書いている。
- C：順番に並び替えたのみ。

- なぜ宝塚は人口が増えているのかという問いに対する仮説を文章で表現できる。

#### 【資料活用の技能・表現】

- A：根拠のある理由を書いている。
- B：2つ程度。
- C：1つ程度。

- 宝塚の地形の特徴（田が減って住宅地が増えている）や仮説の検証結果を活用して、「宝塚の人口が今後増えるか減るか」について文章で表現する。

#### 【社会的な思考・判断】

- A：選択し、根拠を持って説明することができる。
- B：選択し、理由を書いている。
- C：選択したのみ。

## 地理的分野 学習指導案

日時	平成22(2010)年11月12日(金)		
学級	宝塚市立南ひばりガ丘中学校	1年1組	39名
場所	宝塚市立南ひばりガ丘中学校	南館2階	会議室
指導者	宝塚市立南ひばりガ丘中学校	教諭	山本 悠

### 1. 単元名 「身近な地域の調査」

### 2. 単元を学ぶにあたって

#### (1) 単元観

平成24(2012)年度から実施される新学習指導要領では、「身近な地域の調査」は地理的分野の学習のまとめとして、世界と日本の様々な地域の地域的特色を学んだ後に学習するものとして位置づけられている。

「身近な地域の調査」は、地図の読み取り方の基本を身につけさせるとともに、生徒自身が生活している地域を調査の対象とすることで理解と関心を深め、調査の基本的な方法を習得させる大切な単元である。また、今回の改訂では、世界や日本の様々な地域の学習の成果を生かし、自ら学び、考える力を高めることや、地域の課題を見つけることにより、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うことも内容とされた。このことから、本単元は、まさに中学校社会科「地理的分野」の集大成となる。

#### (2) 研究主題・副主題との関わり

研究主題の『自ら見つけ、学び、わかる喜びを』は、新学習指導要領において地理的分野の学習のまとめとして位置づけられた「身近な地域の調査」における習得・探究・活用型の学習を通して体現できると考える。さらに、副主題の『資料(情報)活用の技能を高める』については、地理的分野の学習において地図をはじめ、図表やさまざまな統計資料を収集・選択・活用する技能を身につけさせるための指導上の工夫を行うことにより達成できると考える。

本単元では、日本三大植木生産地のひとつであり、本校の校区の一部である宝塚市山本地区の伝統的地場産業の「植木業」にスポットを当て、「なぜ、山本地区で植木業が営まれているのか?」という問いに対して、様々な視点から仮説を立てさせる。その仮説を検証するための適切な資料を選び、仮説を検証する上で分かりやすい資料となるように加工し、加工された資料を活用して仮説を検証させることにより、研究主題及び副主題に迫る授業が展開できるのではないかと考えた。

### 3. 単元の観点別目標

- ① 社会的事象への関心・意欲・態度
  - ・校区の伝統的地場産業である植木業について興味・関心を持つ。
  - ・仮説を検証するために与えられた様々な資料から仮説を検証する上で必要な情報を得ようとする意欲を高める。
- ② 社会的な思考・判断
  - ・「なぜ、山本地区で植木業が営まれているのか？」という問いに対して、様々な視点から仮説を立てる。
  - ・設定した仮説を多面的・多角的に検証する。
- ③ 資料活用の技能・表現
  - ・仮説を検証するための適切な資料を選択する。
  - ・選択した資料から必要な情報を読み取り、どのように加工すれば分かりやすい資料になるか考える。
  - ・選択した資料を地図化、グラフ化、図式化などを行い、分かりやすい資料として加工する。
- ④ 社会的事象についての知識・理解
  - ・縮尺、方位、等高線、地図記号などの地形図に関する知識を身につける。
  - ・資料活用による身近な地域の調査法を習得する。
  - ・山本地区で植木業が営まれている理由について、鎌倉時代から続く古い歴史があることや一年を通して降水量が少なく冬も温暖である気候、植木づくりに適した緩やかな扇状地、花崗岩質の砂などの地理的条件について理解する。

### 4. 生徒の実態

宝塚市では、小学4年生の社会科で「わたしたちのまち 宝塚」という副読本を用いて宝塚市の農業（山本地区の植木業）について学習している。したがって、宝塚市山本地区が日本三大植木生産地のひとつであり、山本地区における植木業が伝統的地場産業であることを知っている生徒は多い。また、山本地区は本校の校区の一部であることから本校及び本学級の中には植木業に従事している家庭もあり、身近な産業として捉えている生徒も多い。

### 5. 単元の指導計画

時数	学 習 内 容	学 習 活 動
① ②	地形図の約束	・縮尺、方位、等高線、地図記号などの地形図の約束について学習する。
③	地形図の読み取り	・地形図の約束を確認しながら、地形図を読み取り、地形の特徴をつかむ。
④	宝塚市について (宝塚市の産業について)	・宝塚市の人口、面積、人口密度を調べる。 ・宝塚市の特徴について考える。 ・産業に焦点をあてて宝塚市の実態をつかむ。

⑤	「なぜ、山本地区で植木業が営まれているのか？」という問いに対する仮説の設定	・植木業の歴史や気候、地形などの地理的条件、流通や販売などの社会的条件などさまざまな視点から仮説を設定する。
⑥ 【本時】	仮説を検証するための資料の選択・加工	・仮説を検証するための資料を選択する。 ・加工の方法を考える。 ・資料を地図化、グラフ化、図式化など分かりやすく加工する。
⑦	仮説の検証、検証結果のまとめ・発表	・前時に選択、加工した資料をもとに仮説を検証する。 ・人に分かりやすく伝える方法を工夫する。 ・検証結果をまとめ、発表を行う。
⑧	今後の山本地区の植木業の在り方について	・山本地区が将来めざす方向性を考える。

## 6. 本時の展開

### (1) 本時の主題

「なぜ、山本地区で植木業が営まれているのか？」という問いに対して立てた仮説を検証するために、様々な資料の中から適切なものを選択し、分かりやすい資料として加工する。

### (2) 本時のねらい

#### 【資料活用の技能・表現】

- ・提示された資料の中から仮説を検証するための適切な資料を選択する。
- ・選択した資料から必要な情報を読み取り、どのように加工すれば分かりやすい資料になるか考える。
- ・選択した資料を地図化、グラフ化、図式化などを行い、分かりやすい資料として加工する。

### (3) 授業仮説

問いに対して立てた仮説を検証するために、様々な資料の中から適切なものを選択し、誰にでも分かりやすい資料として加工することにより、検証過程の中で自ら課題を見つけ、意欲的に学ぶことができる。また、自分たちで加工した資料を活用し、仮説検証結果を発表することもできる。(⑥時、⑦時)

### (4) 教材名

- ・「宝塚市大辞典」(宝塚市)
- ・「植木のまちミュージアム GUIDE BOOK」(植木と花の郷づくり推進協議会)
- ・「気象状況」(平成21年版 宝塚市統計書)
- ・「農業の推移」(平成21年版 宝塚市統計書)
- ・「販売目的で作付けした作物の栽培農家数と栽培面積」(平成21年版 宝塚市統計書)
- ・「花き生産状況」(平成21年版 宝塚市統計書)
- ・『木接太夫』宝塚の民話と文化財めぐり(宝塚市教育委員会)
- ・「市史研究紀要 たからづか 第8号 平成3年11月」(宝塚市教育委員会)

(5) 学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p>前時の復習 (4分)</p>	<p>●前時に立てた仮説を確認する。</p> <p>【発問】 「前回の授業で『なぜ、山本地区で植木業が営まれているのか?』という問いに対してどんな仮説が出ましたか?」 「班長は自分の班の仮説を発表していきましょう。」</p> <p>【前時に立てると予想される生徒の仮説】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植木づくりの町として古い歴史があるから。</li> <li>・ 坂上頼泰（木接太夫）が接ぎ木法を発明したから。</li> <li>・ 植木づくりに適した気候</li> <li>・ 地形だから。</li> <li>・ 植木業に携わる人が多いから。</li> <li>・ 植木業は儲かるから。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時で各班が設定した仮説を確認していく。</li> <li>・ 仮説の仕分け（グルーピング）は前時に終わり、本時では仕分けによってまとめられた仮説を提示する。</li> <li>・ 複数の班が同じ仮説を立ててもよいものとする。</li> <li>・ 各班の仮説をフリップにして黒板に掲示していく。</li> </ul>
<p>資料の選択 (15分)</p>	<p>●教師が提示した資料の中から仮説を検証していくための適切な資料を選択する。</p> <p>【発問】 「自分たちが立てた仮説を検証するためには、どんな資料が必要ですか?」</p> <p>【提示する資料】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「宝塚市大辞典」</li> <li>・ 「植木のまちミュージアム GUIDE BOOK」</li> <li>・ 「気象状況」</li> <li>・ 「農業の推移」</li> <li>・ 「販売目的で作付けした作物の栽培農家数と栽培面積」</li> <li>・ 「花き生産状況」</li> <li>・ 「『木接太夫』宝塚の民話と文化財めぐり」</li> <li>・ 「市史研究紀要 たからづか第8号 平成3年11月」</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既に学習している資料をもとにした「仮説—検証」型の授業を思い出させ、それを参考にして取り組ませる。</li> <li>・ 生産額や出荷額などに関する資料の収集が困難であったことを伝える。</li> <li>・ 各班に同じ資料を提示する。</li> <li>・ 資料選択の進捗状況を把握し、他の班の参考となる事例があれば適宜紹介する。</li> </ul>

<p>資料の加工 (25分)</p>	<p>●選択した資料から必要な情報を読み取り、どのように加工すれば分かりやすいものになるかを考える。</p> <p>【発問】 「仮説を検証するために選んだ資料を分かりやすいものにするにはどうしたらよいですか？」</p> <p>【予想される生徒の反応】 「資料をアレンジ（加工）する。」</p> <p>【発問】 「では、どのように加工すればよいですか？」</p> <p>【予想される生徒の反応】 「年表をつくる。」「グラフをつくる。」「地図に表してみる。」など</p> <p>●選択した資料を地図化、グラフ化、図式化など様々な方法で分かりやすく加工する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜、机間巡視をしながらグラフの種類や地図化の方法などを助言していく。</li> <li>以前に学習した際に作成した資料（加工した資料）を提示し、それらを参考にして取り組ませる。</li> <li>加工のポイントとして①まずは自分たちが分かるものであること②誰にでも分かるものであること、に留意させる。</li> <li>次時の検証結果の発表を見据えてまとめや発表の方法を考えさせる。</li> </ul>
<p>本時のまとめ (5分)</p>	<p>●どんな資料を選択し、どのように加工したのかを発表する。</p> <p>【発問】 「仮説を検証するためにどんな資料を選び、どのように加工しましたか？発表していきましょう。」</p> <p>【予想される加工の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植木づくりの町として古い歴史があることを検証するために、「宝塚市大辞典」や「植木のまちミュージアムGUIDE BOOK」などを使って、宝塚の植木に関する年表をつくった。</li> <li>植木づくりに適した気候・地形であることを検証するために、「気象状況」や「市史研究紀要」などを使って、宝塚市の雨温図や地形図をつくった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料加工の進捗状況を把握し、他の班の参考となる事例を取り上げ発表させる。</li> <li>各班の「仮説」「選択した資料」「加工の方法」が分かるように発表させる。</li> <li>仮説の検証は次時に行うので、資料の選択・加工のみを発表させる。</li> </ul>

<p>本時のまとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植木業に関する農家数や生産状況を検証するために、「農業の推移」や「販売目的で作付けした作物の栽培農家数と栽培面積」などを使って、「耕地面積の割合」や「宝塚市各地区の農家の割合」、「主要作物別の収穫面積」のグラフをつくった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時までには未完成の資料があれば完成させるために班で作業分担を行わせる。</li> </ul>
<p>次時の予告 (1分)</p>	<p>「次回は、今日作成した資料をもとに仮説を検証し、検証結果をまとめて発表します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の授業に向けて自分で調べた資料があれば持参するように促す。</li> </ul>

●印は生徒の活動を示す

(6) 評価の規準

【資料活用の技能・表現】

- 提示された資料の中から仮説を検証するための適切な資料を選択することができる。
- 選択した資料から必要な情報を読み取り、どのように加工すれば分かりやすい資料になるか考えることができる。
- 選択した資料を地図化、グラフ化、図式化などを行い、分かりやすい資料として加工することができる。

## 歴 史 的 分 野 学 習 指 導 案

日 時	平成22 (2010) 年11月12日 (金)		
学 級	伊丹市立松崎中学校	2年4組	39名
	伊丹市立 北中学校	2年4組	37名
場 所	いたみホール中ホール・・・伊丹市立松崎中学校 いたみホール多目的ホール・・・伊丹市立北中学校		
指 導 者	伊丹市立松崎中学校	教諭	古城門克己
	伊丹市立松崎中学校	教諭	中川 彰布
	伊丹市立北中学校	教諭	櫻井真理子

## 1 単元名 「4. 産業と交通の発達 ～身近な地域「伊丹」 伊丹の酒造り～」

## 2 単元を学ぶにあたって

## (1) 単元観

江戸時代は、産業や交通の発達にともない、教育が普及し文化が広がってきた時代である。本単元は、こうした背景のもと、町人文化が都市を中心に形成され、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる単元である。平和な時代の訪れとともに、人口が急増し、農業をはじめ、産業が飛躍的に発達した。農村を中心とした自給自足の経済が崩れ、町人を中心とする貨幣経済の時代が訪れた。

また、それに伴い、都市や交通、商業も近代的な発展を遂げ、町人の力が台頭してきた。そういった経済社会の変化の中で、私たち伊丹郷町も五摂家近衛家直轄地の庇護の下、酒造りなどの地場産業に力を入れ、発展を遂げてきた。

当時の資料によると伊丹酒は江戸では「丹醸」と呼ばれ、官中奉納酒として、もっとも格式がある酒であるとされた。伊丹酒は、樽廻船で江戸積み銘醸酒として大量に出荷され、江戸の酒需要の八割を供給するに至った。江戸後期はその地位を灘や西宮に譲るものの、最盛期は2500軒を越す町屋と、人口1万人を抱える大都市へと成長した。

生徒は身近な地域でありながら、なかなか具体的に郷土史を学ぶ機会が少ない。伊丹の酒造りの学習を通して、実際に自分たちで地域の様々な資料を発掘し、必要な情報を活用しながら、日本通史の産業と交通の発達の関係を踏まえて、多面的に郷土を捉える機会とさせたい。

## (2) 研究主題・副主題との関わり

本県では、「自ら見つけ、学び、わかる喜びを」と継続して研究主題を設定してきた。さらに、阪神地区においては「資料(情報)活用の技能を高める」ということを副主題に設定してきた。

さらに、新学習指導要領の示す、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して

歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」に主眼を置いた研究に取り組んできた。伊丹市では「なぜ、伊丹で酒造りがさかんになったのか」という問いを中心に、授業仮説を設定してきた。公開授業に際しては、2校2クラスで同様の指導計画で2時間設定の授業を本時①、本時②として展開したい。

本時①では、フィールドワークを通じてねらいに迫る資料を収集させ、班活動で情報の取捨選択・加工をし発表することによって資料活用の技能を高めさせたい。また、その資料を活用し、問いに対する理由の仮説設定をさせたい。

本時②では、答えの検証のためにさらに資料を選択して提示し、グループワークなどを通してその仮説設定を検証させたい。(探究Ⅰ)

さらに、伊丹の酒造りで学習した産業と交通・技術の発達との関連性から、江戸時代の産業の発達が全国の他地域でも同じ概念により、都市や交通・技術の発達が不可欠であることを検証させたい。(探究Ⅱ)

※参考文献『中学校社会科「新教材」授業設計プラン』

兵庫教育大学大学院教授 米田豊 著

### 3 単元の観点別目標

#### ① 社会的事象への関心・意欲・態度

伊丹の酒造りや文化に関する資料から必要な情報集め、加工し、読み取ることで伊丹の歴史についての興味・関心を高める。

#### ② 社会的な思考・判断

伊丹の酒造りと伊丹郷町の発展や文化の広がりについて、提示された情報から、技術力、資本力、輸送力が大きな原因であったことに気づき、問いに対して資料を多角的・多面的にとらえ、関連づけながら考察する力を身につける。

#### ③ 資料活用の技能・表現

伊丹の酒造りや文化の広がりに関する資料をフィールドワークを実施して、情報を収集し、選択、加工して自分たちの考えをまとめることができる。

加工した情報を適切にわかりやすく表現できる力を身につける。

#### ④ 社会的事象についての知識・理解

伊丹の酒造りの発展には、蓄積された資本力のもと、他地域を寄せ付けない圧倒的な技術力があり、樽廻船による輸送力の発展が欠かせなかったことを理解する。

伊丹の酒造りの発展により、数多くの文化人が伊丹と関わっていたことを知る。

江戸時代の産業や文化の発展には交通や技術の発達と密接な関係があることを、山形の紅花、徳島の藍の事例を通して確認できる。

#### 4 生徒の実態

##### 伊丹市立松崎中学校

2年4組の生徒は、平素の学習活動でも社会科に対する関心は高く、資料から問いに対する答えを見つけ出す活動にも熱心である。さらに教師側の切り返しや深める発問に対しても食いついてくる生徒も多い。ただ、今回のようなテーマに対する資料や情報の収集、選択・加工といった作業は不慣れである。また、小学校の郷土史学習も経験しているが、伊丹については漠然とした知識しか持ち合わせていない生徒も多い。フィールドワークに向かう事前学習段階から、既習知識を活用しながらテーマに迫る資料づくりを考えさせ、わかりやすい発表を指導したい。

また、資料を活用しながら「問い」に迫る班活動、探究活動を目指したい。

##### 伊丹市立北中学校

2年生の生徒は、地理と歴史をπ型で学んでいる。地理の時間は、世界の国々や都道府県などに対する興味を持っている生徒が多く、地図帳やインターネットなどを使っての調べ学習に意欲的に取り組む姿が多く見られた。歴史学習については、歴史上の人物に興味を持っている生徒が多く、体験的な活動を行う授業では、活発に話し合う姿が見られた。しかし、地理・歴史どちらにおいても、資料を加工することや、資料を見て自ら考察することのできる生徒は少ない。

また、小学校で郷土史を学習しているが、伊丹について鮮明な知識を持っている生徒は少なく、フィールドワークの経験も少ない。

今回のフィールドワークから考察し、発表するという活動を通して、郷土を愛し誇りに思う気持ちを育てるとともに、資料を自ら考察することの喜びを感じさせていきたい。

#### 5 単元の指導計画 〈8月～11月〉

◎産業・交通の発達（副教材 身近な地域「伊丹」から、江戸時代伊丹の酒造り）

時数	学習内容	生徒の学習活動
①	「なぜ、伊丹で酒造りが盛んになったのだろうか」という問いへの理由仮説の設定のため、各班ごとに発表テーマの決定、調査内容の分担、調査場所の分担等の検討	・8月3日のフィールドワークについての決定事項を決定する。 ・テーマ①「伊丹の酒造り」の歴史 ・テーマ②江戸期の「伊丹の酒造り」の実態 ・テーマ③「伊丹の酒」と文化人との関わりのテーマを決定し、調査内容・場所等を検討して分担する。
②	決定した2班合同1テーマのフィールドワークの実施（8月3日午前）	・フィールドワークの実施〈資料の収集〉 あらかじめ分担した調査内容を調べるため決定場所に出向き、聞き取り、データ収集、写真撮影などの資料収集を行う。

③ ④ ⑤	資料の選択・加工 「なぜ、伊丹で酒造りが盛んになったのだろうか」の理由についての仮説に対して、各テーマとの関連して選択、加工設定	・資料の選択・加工 テーマ①～③について、プレゼンテーションのための重要事項・必須説明事項などを選択し、パワーポイントを利用して加工する。加工した画面を構成する。
⑥	プレゼンテーション実施のための打ち合わせ・練習	・実際のプレゼンテーションの際の役割分担の決定 ・司会、発表者、各係を決め、本番に向けての練習
⑦	身近な地域「伊丹」古代から近世までの歴史・弥生時代と田能遺跡 ・古墳時代と御願塚古墳 ・行基と昆陽池、昆陽寺 ・高師直塚 ・伊丹氏滅亡と荒木村重 ・伊丹郷と近衛家の支配	・伊丹の歴史について、遺跡や伊丹の歴史と関係ある人物との関わりを通じて、古代から江戸時代に至る伊丹の歴史の基本的な知識を知る。 ・特に、近世期以降の伊丹の商業地としての立地(西国街道の要所)、城下町から、近衛家による管理・統制
⑧ 【本時①】	テーマ①②③について、それぞれ発表、ワークシートに記入 「なぜ、伊丹で酒造りが盛んになったのだろうか」の理由を班で検討、発表	・テーマ①～③について、パワーポイントを利用して、わかりやすく簡潔に発表する。発表者以外は、しっかりと聞き取り、ワークシートに質問内容や評価を記入する。 ・主発問についての仮説を班単位で立て、発表する。
⑨ 【本時②】	1. 新しく資料を提示する。前時の班での仮説をもとに、新たに提示された資料により、仮説の検証、討議(探究Ⅰ) 2. 江戸時代の地場産業山形の紅花、徳島の藍についての資料の提示それぞれの産業が盛んになった理由を考える。その仮説の検証(探究Ⅱ)	・各班の問いに対する理由仮説を検証する。教師から提示された資料から、仮説内容についてその裏付けとなる理由を班で討議して、発表の準備をする。 ・各班で、その理由を発表する。 ・問いに対する理由を確認する。  ・山形の紅花作りに関する資料から、その発達の理由を考える。班で仮説を立てて、検証し、発表する。 ・徳島の藍に関する資料からも、その発達の理由を考える。班単位で仮説を立てて検証し、発表する。

## 6 本時の展開

### (1) 本時の主題

- ① 伊丹の酒造りに関して資料を収集し、選択・加工した資料を使って、「なぜ伊丹の酒造りが盛んになったのか」の理由仮説を立てさせる。
- ② 前時の仮説を検証するために、新たな資料を使って、理由を班活動を通じて探求する。さらに、他地域の産業の発展の理由を検証させることによって、産業の発達と交通や技術の発達が不可欠なことを探求する。

(2) 本時のねらい

- ① 伊丹の酒造りや文化人との関わりの資料収集や加工を行った資料を活用することで郷土伊丹について、興味・関心を深める。
- ② 伊丹の酒造りの発展の理由を、技術力、資本力、輸送力の革新によることを、自分たちが収集し加工した各資料を使って、多角的に考察し理解できる。
- ③ 伊丹の酒造りの発展に関する資料を自分たちで収集し加工した情報として、正確にわかりやすく表現することができる。
- ④ 伊丹の酒造りで学習した産業と交通・技術の発達との関連性を、知識として理解できる。

また、江戸時代の全国の他地域の産業の発達に関する資料を用いて、さらに探究できる。

(3) 授業仮説

- ① 夏休み以降、フィールドワークで収集してきた資料を選択・加工し、問いに対する仮説を各テーマ毎に重点を絞って発表できる。
- ② 前時までの「身近な地域伊丹」の近世までの歴史学習で、伊丹に関する歴史的な出来事や関係する人物についての基礎的知識を持っているので次の③のような仮説を立てることができる。
- ③ 各テーマ毎の発表で、
  - ・伊丹の酒造りの技術は他を寄せ付けない高度な技術があったこと
  - ・「伊丹郷町」として資本力が蓄えられており、さらに五撰家筆頭・近衛家の保護と管理体制が築かれていたこと
  - ・大量の酒樽を江戸まで輸送するため、樽廻船に伴う流通革新が行われたこと等の、伊丹の酒造りの発展の主な理由としての仮説を立てることができる。
- ④ 伊丹が酒造りにより商人の町として栄え、高い文化を発展させたことに気づくことができる。
- ⑤ 教師側の提示した資料により、江戸時代の伊丹の酒造りも全国的な地場産業の発達も、交通や技術の発達と不可欠であったことを検証することができる。

(4) 教材名

- ・「身近な地域～伊丹～」
- ・伊丹の酒造りと文化に関する自主制作パワーポイント
  - テーマ①「伊丹の酒造り」の歴史
  - テーマ② 江戸期の「伊丹の酒造り」の実態
  - テーマ③「伊丹の酒」と文化人の関わり

(5) 学習指導過程

指導案 本時 ① (松崎中学校 2年4組)

	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>前時の学習内容の確認</p> <p>①荒木村重と有岡城</p> <p>②近衛家の「天領地」としての庇護と管理 (3分)</p>	<p>①「伊丹氏に変わって、伊丹を支配したのは誰でしたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通の要所で領地の激しい争奪</li> <li>織田信長により、伊丹氏は追放</li> <li>荒木村重が有岡城を建て、整備</li> <li>謀反の疑いで信長から逃亡</li> </ul> <p>②「村重以後の伊丹はどのような町になっていましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近衛家の天領地</li> <li>商業都市「伊丹郷町」として発展</li> </ul>	<p>前時の活動の確認と本時に至る導入場面なのであまり深入りせず、簡単な確認にとどめる。</p>
展 開	<p>①発表Ⅰ 「伊丹の酒りの歴史」 (7分)</p> <p>②発表Ⅱ 江戸時代の「伊丹の酒造り」の実態についての発表 (7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊丹の酒屋24軒 名字帯刀の許可</li> <li>幕府の「御用酒」で「御免酒」の禁制</li> <li>伊丹の酒は「丹醸」と呼ばれ、高級酒</li> <li>鴻池村が清酒発祥の地</li> <li>山中鹿之助の長男 新六(幸元)が諸白を使った三段仕込み江戸に駄送り(陸上輸送)して大評判江戸積み酒造地として急発展</li> <li>現在残る商家の紹介 国指定重要文化財 旧岡田家住宅・旧石橋家住宅</li> <li>旧新町家、郷町長屋</li> <li>現在残る伊丹の酒造の紹介 白雪酒造・大手柄酒造 伊丹老松酒造・長寿蔵</li> </ul> <p>「『伊丹の酒造りの歴史』の発表で、印象に残ったことは何ですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「僧坊酒」から地酒の時代へ 清酒の誕生「奈良 南都諸白」 麴米、掛け米とも精米した白米の使用</li> <li>他に類を見ない高度な酒造技術</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①精米 足踏み精米の諸白作り</li> <li>②米洗いと浸漬</li> <li>③蒸し</li> <li>④麴づくり</li> <li>⑤酏(もと)づくり</li> <li>⑥醪づくり 三段仕込み</li> <li>⑦酒搾り</li> <li>⑧火入れ(低温殺菌) <ul style="list-style-type: none"> <li>五回醸造から寒造りへの集中化</li> <li>火入れ(低温殺菌)による長期保存</li> <li>樽廻船 江戸積み酒造地 樽詰の杉香</li> </ul> </li> </ol> <p>「『江戸時代の伊丹の酒造りの実態』の発表を聞いて、伊丹の酒造りの特徴は何だと思いますか。」</p>	<p>2班が調べてきた資料を一つにまとめた内容を発表する。</p> <p>発表を聞きながら、必要事項をワークシートにメモさせる。</p> <p>ワークシートの記入欄に質問の答えを書かせる。発表内容とまとめ方、発表の仕方について各自で評価する。(2分)</p>

展 開	<p>③発表Ⅲ 「伊丹の酒と文化人の関わり」(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柿衛文庫 上島鬼貫、頼山陽</li> <li>・北斎漫画 葛飾北斎</li> <li>・私塾懷徳堂 中井積徳(履軒)の清酒発祥の稲荷社碑</li> <li>・日本山海名産図会 鴻池伝</li> <li>・日本永代蔵 井原西鶴</li> <li>・鉄道唱歌 酒の町</li> <li>・伊丹各地に広がる文学碑の紹介</li> </ul> <p>「『伊丹の酒と文化人との関わり』の発表を聞いて、特に印象に残ったものは何ですか。」</p>	<p>ワークシートの記入欄に質問の答えを書かせる。発表内容とまとめ方、発表の仕方について各自で評価する。(2分)</p>
	<p>「伊丹の酒造り」の発展理由についての各班の仮説の設定 個人設定 班設定 (10分)</p>	<p>「本時の3つのテーマの発表を聞いて、『なぜ、伊丹の酒造りがさかんになったか』という問いの理由について、予想を立て、いくつか絞ってワークシートに書きなさい。」</p> <p>「では、各班ごとに意見を出し合って、班の意見としてある程度まとめてください。」</p>	<p>ワークシートの記入欄に質問の答えを書かせる。班ごとにそれぞれの意見を出させて、討議させる。</p> <p>フラッシュカードに記入させる。</p>
ま と め	<p>班の仮説の発表(5分)</p> <p>次時の予告</p>	<p>「それでは、順番に班ごとで、簡潔に理由をつけて発表してください。」</p> <p>「各班の理由仮説が発表されました。次の時間に、また、別の資料を使って各班の仮説が正しいのか、別の理由があったかを確かめていきたいと思います。家庭でもよく考えておいてきてください。」</p>	<p>班ごとに代表者が発表する。</p>

指導案 本時② (北中学校 2年4組)

	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	前時の学習内容の確認 「伊丹で酒造りが発展した理由」	前時で立てた理由仮説の確認 理由を書いたフラッシュカードを黒板に掲示し、確認する。	発表レジュメやプレゼンテーションに使った物を掲示しておき、要点を確認する。
展 開	①討議 I (15分)	江戸積名酒番付 摂泉十二郷の地域図 江戸入津樽数の変遷 伊丹市章  発問 1 「江戸時代に伊丹の酒造りが発展したのはどうしてだと思いますか」  南都諸白の継承 清酒発祥の地  足踏み精米 三段仕込  保存技術 (低温殺菌)  → 技術革新  伊丹郷町の資本力  近衛家による保護  → 資本力  江戸に駄送り 駄六川  樽廻船で江戸へ→下り酒として発展  → 流通	教師が用意した資料を提示し、発表の内容を検証させる。それらをもとに班で話し合い、考察する。  各自でふせんに記入させる。班(4人)で同じ意見同士をまとめ、テーマをつけさせる。「技術革新」「流通」「資本力」に近い言葉を導き出せるようにする。
	②発表 「他の地域の特産物」 (7分)	事例 1 山形の紅花 最上地方の肥沃な土壌 最上川の舟運による山形と京都や大阪との結びつき (北前船) 紅花商人の活躍  事例 2 阿波の藍 すくも (藍の葉を発酵させて染料にしたもの) の製法が上方から伝わる 藩主蜂須賀氏による保護・奨励 吉野川の水運	それぞれのテーマの関係 (対になるのか、上下関係になるのかなど) を考えさせる。  他の地域の特産物について代表班 (1~2班) が発表を聞きながら、必要事項をワークシートにメモさせる。

展 開	③討議Ⅱ 「他の地域の特産物が発展した理由」 (18分)	<b>発問 2</b> 「江戸時代は、他の地域にも特産物が発展しています。その特徴は何だと思えますか」  事例 1 山形の紅花  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">最上地方の肥沃な土壌</div> → 技術革新  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">紅花商人の活躍</div> → 資本力  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">最上川の舟運と北前船</div> → 流通  事例 2 藍  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">すくも（藍の葉を発酵させて染料にしたもの）の製法が上方から伝わる</div>  → 技術革新  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">藩主蜂須賀氏による保護・奨励</div>  → 資本力  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">吉野川の水運</div>  → 流通	発表と、各班で調べてきたことをもとに班で話し合い、考察する。  各自でふせんに記入させる。班で同じ意見同士をまとめ、テーマをつけさせる。「技術革新」「流通」「資本力」に近い言葉を導き出せるようにする。  伊丹の酒造りと共通点が多いことに気づかせる。
	まとめ	どうしてこの時代に特産物が増えたのかを整理する (5分)  「江戸時代に各地に特産物が増えた共通の背景は何ですか」 「産業が発達するためには何が必要ですか」	ワークシートの記入欄に発問の答えを書かせる。

(6) 評価の規準（単元の観点別目標）

- ① 伊丹の酒造りの資料収集や選択・加工の作業を通して、郷土の歴史や文化に興味・関心が持てたか。
- ② 伊丹の酒造りと町の発展の理由を自分たちで作った資料を活用して、技術力・資本力・輸送力や立地条件の視点で多角的・多面的にとらえて考えることができたか。
- ③ 自分たちで集めてきた伊丹の酒造りや文化との関わりについての情報や資料を選択し、加工し、わかりやすく発表できたか。
- ④ 江戸時代の産業や交通の発達の中で、伊丹の酒造りの発達した理由が技術力・資本力・輸送力の革新であること、また、その財力によって、文化人が集まり、伊丹の地域文化が広がったことを知識として理解し、全国的にも産業の発達に交通や技術の発達が果たした役割を理解できたか。

## 公民的分野 学習指導案

日時	平成22(2010)年11月12日(金)		
学級	尼崎市立南武庫之荘中学校	3年5組	40名
場所	尼崎市立南武庫之荘中学校	3年5組教室	
指導者	尼崎市立南武庫之荘中学校	教諭	尾之内 潤

## 1 単元名 「消費者の保護」

## 2 単元を学ぶにあたって

## (1) 単元観

消費者保護に関連する国内の動きは、近年著しい。消費者問題にかかわる行政機関を一元化した消費者庁の設置(2009年)をはじめ、これまでは泣き寝入りしていた事例でも、消費者団体が裁判を起こすことができる消費者団体訴訟制度の施行(2007年)などが挙げられる。消費者問題が注目される背景には、悪質商法などによる被害が後を絶たない現状がある。高齢者だけでなく、若者をねらったケースも多い。中学生の携帯電話の所持率は高く、携帯電話を“窓口”に、消費者問題の当事者となるケースも増えてきている。

学校での消費者教育は、主に社会科や家庭科で行われてきた。1989年の学習指導要領改訂で、中学・社会科と高校・公民科で消費者保護や契約に関する教育が明確に位置づけられた。新学習指導要領でも、公民的分野の中の「消費者の保護」について、「市場の動きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる」と新たな文言が盛り込まれている。

今回の単元である「消費者の保護」では、クーリング・オフ制度、PL法などの消費者を守る制度をおさえる前に、「なぜ、行政は消費者を保護する必要があるのか」という根源的な問いを考えさせることで、情報量が少ない消費者が、生産者より不利で弱い立場にあることに気づかせる。その上で弱い立場の人を守るのが、行政の役割であるという視点から、相談機関や法のおおまかな内容を説明できるようにさせる。将来的には、さまざまな危険にさらされていることを念頭に、防げる失敗は未然に防げるような消費者になってほしい。

## (2) 研究主題・副主題との関わり

「消費者」として社会で生活する上で、本大会の副主題にもなっている「資料(情報)活用の技能」は、絶対に必要な力である。広告や店員の話、インターネット上の口コミなどから事前に商品の情報を集め、選択し、買う。いわば、消費活動は「資料活用の連続」といえよう。

今回の授業では、「なぜ、行政は消費者を保護する必要があるのか?」というテーマを設定し、予想(ノートだけを見て、これまで学習した知識をもとに仮説を立てる)・

検証（教科書、資料集、当日配布する資料などを使って、仮説が合っているか確かめる）し、言語活動を中心とした授業を展開する中で「自ら学び、わかる喜び」を感じさせたい。

### 3 単元の観点別目標

- ① 社会的事象への関心・意欲・態度  
消費者問題に触れ、自分もその被害にあうかも知れないという意識を持つことができる。
- ② 社会的な思考・判断  
将来、消費活動の中でトラブルに巻き込まれないようにするには、「すぐに決めない」「簡単にもうかる話などない」などの注意が必要であるという結論を導くことができる。
- ③ 資料活用の技能・表現  
悪質商法の被害事例から、消費者が弱く、不利な立場であることを読み取ることができる。
- ④ 社会的事象についての知識・理解  
消費者は弱く、不利な立場であることから、法整備や相談機関の設置など行政の役割が必要であることを説明できる。

### 4 生徒の実態

本クラスの生徒の携帯電話所持率は、約82%と高い。将来というより、今まさに消費者教育が必要である。その生徒たちがトラブルに巻き込まれた事例も絡めながら、いつでも被害者になり得るという意識を持たせたい。

授業への姿勢については、年度当初、授業規律を徹底するのに苦労した。はじめと終わりの礼をきちんとする、グループ学習の時に授業以外の話題を話さない、人が発表している時は黙って聞く、など基本的なことができていないので、1つずつその場面で注意せざるを得ない。すでに高校進学をあきらめ、授業中に机に突っ伏して寝ている生徒もいる。そういった生徒たちも興味・関心が持てるような授業を展開できるかどうか。一方、学習意欲のある生徒たちが探究心を持ってのぞめる授業のネタが準備できるかが、課題である。

### 5 単元の指導計画

段階	おもな学習内容	学 習 活 動 な ど
① (本時)	消費者の保護	なぜ、行政が消費者を保護する必要があるのかという問いに「消費者が生産者より弱い立場にあるため」と説明できる。
②	行政の役割	PL法、クーリング・オフ制度、消費生活センターなど、消費者を守るために行政によってつくられた制度の内容をおおまかに説明できる。

6 本時の展開

(1) 本時の主題

なぜ、行政は消費者を保護する必要があるのか。

(2) 本時のねらい

消費者には情報が少なく、不利で弱い立場にあるため、行政が保護する役割を担っていることを説明できる。【知識・理解】

(3) 授業仮説

消費者が契約をめぐるトラブルに巻きこまれた事例について、売る側、買う側の商品に対する情報量の違いに着目して資料を読み解けば、消費者が弱く、不利な立場であるということがわかる。

(4) 教材名

- ・わたしたちの中学社会 公民的分野 日本書籍新社
- ・経済産業省 「トラブルファイル2007 誰かがあなたを狙っている」

(5) 学習指導過程

学習内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
小テスト  導入	<p>前回の授業をもとに、担当班の生徒が出題。そのあと、小テストを行う。</p> <p>Q. みなさん買い物好きですか？ A. 好き（楽しいから） Q. 1番買ってうれしかったものは？ A. ゲーム、好きなマンガ、グローブ・・・ Q. 商品を買う立場の人を社会科では「消費者」といいます。それに対して、商品をつくる側の人を「生産者」といいます。実は今日のテーマは「消費者の保護」です。保護とは守ること。消費者を守るのはだれでしょう？ A. 行政（事前に、個人－行政－企業の関係図を学習しておく） Q. 楽しい買い物をする消費者を、行政が守るって何かおかしい感じがしますね。ではここで今日のテーマです。</p>	<p>発問者の声が入りやすいので、後ろまで届かせるよう指示。</p> <p>まずは、買い物＝消費活動が楽しいものであるということを強調する。</p> <p>「楽しい買い物」と「消費者の保護」という矛盾に気づかせる。</p>

テーマ

なぜ、行政は消費者を守る必要があるのか？

展開（予想）	<p>◎それでは、予想してみましょう。みなさんがすでに学習した内容に、ヒントが隠されています。班ごとに予想し、発表者を決める。</p>	<p>見てもいいのはノートのみ。これまで学習した知識をもとに予想させる。</p>
--------	---	--

展開（予想）	<p>Q. それでは発表してください。 班の代表者が発表する。</p> <p>A. 弱い立場だから。 不利な立場だから。</p>	<p>発表者以外は、静かにメモをとらせる。</p>
展開（検証）	<p>◎それでは、検証してみましょう。 検証用の資料は用意しました。教科書、資料集と合わせて活用してください。消費者（買う側）と生産者（売る側）の情報量の違いに着目して、資料を読み解いてみてください。（経済産業省がまとめたトラブル事例のプリントを配布する。）</p> <p>◎それでは、検証結果を発表してください。班の代表者が発表する。</p>	<p>【読み取り】 よそごとをしないように注意を払う。検証する資料にたどりつかない班にはページを指示し、ヒントを与える。</p> <p>【解釈・説明】</p>
結論	<p>◎では結論をまとめましょう。</p>	<p>【解釈・説明】 まとめるのが難しそうであれば、穴埋めにするなど、ヒントを出す。</p>

**結 論**

**消費者は、生産者より情報量が少なく、  
不利で弱い立場にあるため。**

	<p>◎トラブルの事例を見てわかるように、消費活動は楽しいことばかりではありません。あなたたちがそういう場面に巻き込まれた時のために、行政が相談できる機関を設けています。（学校近くの消費生活センターの写真を見せる）</p> <p>Q. 実は「失敗した買い物は？」をテーマに先生方にアンケートをとりました。さて、次のケースは相談に行くべきでしょうか？</p> <p>①かわいいと思って買った服のサイズが自分と合わなかった （3年5組担任）</p> <p>②ネットでDVDレコーダーを購入し、5万円を振り込んだが、商品が届かない （尾之内）</p>	<p>具体的な相談事例を示し、個人では解決できない問題を相談できる機関として、消費生活センターがあることを確認する。</p>
--	--	--

結論	<p>A. ①は行くものではない。 ②は行くべき。</p> <p>Q. その違いは？</p> <p>A. ①は自分の努力で解決すべき問題だが、②は自分の努力ではどうすることもできない問題。</p> <p>◎そうですね。個人ではどうしようもない問題については、相談すべきですね。また、そういったケースに出くわした消費者を守る法があります。それは次の時間、勉強します。</p>	
----	--	--

(6) 評価の規準

- 消費者問題に触れ、自分もその被害にあうかも知れないという意識を持つことができる。
- 悪質商法の被害事例から、消費者が弱く不利な立場であることを読み取ることができる。
- 消費者には情報が少なく、不利で弱い立場にあるため、行政が保護する役割を担っていることを説明できる。

## 公民的分野 学習指導案

日時	平成22(2010)年11月12日(金)
学級	尼崎市立南武庫之荘中学校 3年4組 40名
場所	尼崎市立南武庫之荘中学校 3年4組教室
指導者	尼崎市立南武庫之荘中学校 教諭 真島 清行

### 1 単元名 「主権者としての消費者と政府の役割」

### 2 単元を学ぶにあたって

#### (1) 単元観

新学習指導要領の公民的分野の内容「私たちと経済」では、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させる」と示されている。さらに「国民生活と政府の役割」では、「消費者の保護」を国や自治体の役割としてとらえている。

これらを踏まえ生徒が日常消費者として活動している経験から、消費者問題を導き出し、現在社会には多くの消費者問題が発生しており、その被害も甚大であることを理解させたい。さらにその発生原因や、その解決方法に課題を設定し、消費者問題を探究させていきたい。

また、現在の経済社会において、利益優先の企業観や巨大企業主義のなかで、消費者各個人の存在や力は非常に弱い。消費者が購入する商品の生産工程に関する情報が得られるものは、表示ラベル等ほんの一部であり、実際には皆無に等しい。このような弱い立場の消費者を守り、企業有利な経済状況のバランスを図る必要が、国や自治体に求められていることを認識させたい。

そして、主権を持つ消費者として、国の法やしくみの整備、企業の安全性の確保・説明責任といった動きに、常に注意を払い、主体的に判断し行動できる力を身につけさせる。

#### (2) 研究主題・副主題との関わりと指導観

研究主題の「自ら見つけ、学び、わかる喜びを」を、生徒が日頃体験する消費活動に照らして考え、「自ら見つけ(課題発見)」=日頃商品を購入するときに、うまく・だまされず買うためにはどうするか? 「学び」=この単元での学習を位置づけ、「わかる喜び」=今後の商品購入の場面で、求めている商品を適切に購入できることを目指すととらえる。

また、副主題の「資料(情報)活用の技能を高める」に関しては、本時の学習における仮説設定とその検証の過程で、日頃生徒が購入している商品や新聞記事を題材として利用し、さらに資料集や教科書の法律の抜粋を適切に取捨選択することによって、その資料活用の技能の向上につなげる。

### 3 単元の観点別目標

#### ① 社会的事象への関心・意欲・態度

日頃行っている消費活動について、その必要性和問題点について関心を持ち、そこから資料・情報を積極的に収集し、問題解決に取り組む姿勢が持てる。

#### ② 社会的な思考・判断

消費者問題について日常の消費活動からとらえることができ、その問題の発生と解決策について自己の仮説を設定し、収集した情報や資料からその問題の発生原因や解決策を議論・考察し検証していくことができる。

#### ③ 資料活用の技能・表現

消費活動に関わる法律やしくみに関する資料を比較したり関連づけたりし、その資料を必用に応じて取捨選択し、適切に仮説検証に利用する技能を習得することができる。

#### ④ 社会的事象についての知識・理解

消費者問題は様々な背景から発生し、自らもその問題に巻き込まれる恐れが多分にあることを認識し、その解決策として消費者・行政・企業がそれぞれの立場で努力していく必要があることを理解し説明することができる。

### 4 生徒観

日頃の授業では発言や発表が少なく静かに授業が進んでいく。しかし、ノートには学習に関する内容を自分なりに思考し記述・表現することができ、「自分ノート」づくりができる。

次の課題として、積極的に自分の意見として発表し議論し友人と共にコミュニケーションしつつ学習課題に取り組む態度の育成が必要であると考ええる。

### 5 単元の指導計画

段階	学 習 内 容	学 習 活 動
第1次 (本時)	主権者としての消費者について	経済活動に関わる消費者・国・企業において、その中心たる主権者は消費者であることを理解する
第2次	消費者保護のための行政の役割について	巨大企業・国家権力に対して、消費者の具体的保護政策について理解する

### 6 本時の展開

#### (1) 本時の主題

主権者としての消費者の活動と、それを保護する行政と企業の役割

#### (2) 本時のねらい

- ① 日頃経験する消費生活の中に、消費者問題が潜んでいることに気づくことができる。
- ② 消費者問題を解決する方法として、それぞれの立場で、消費者は国に対して消費者保護の要求、企業に対しては発信される情報が真実であるかどうかを見極める努力が必要であり、国は法律やしくみを整備し、企業の監視・監督を行い、企業は法律を守り、表示・説明・安全性の責任や義務を果たす必要があることを理解する。

(3) 授業仮説

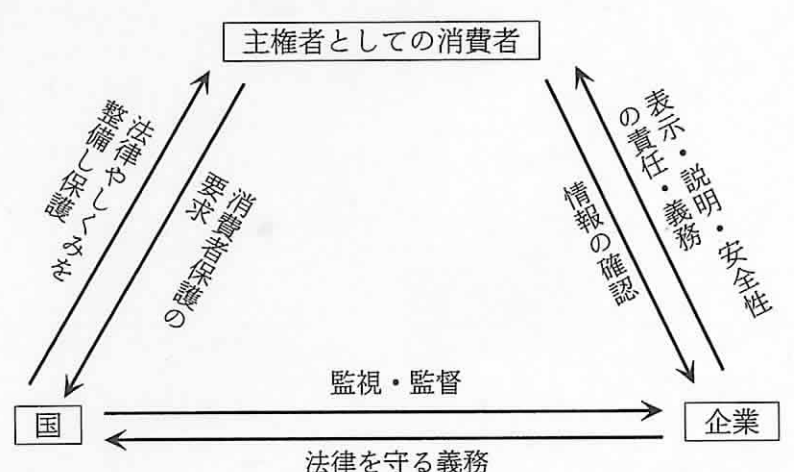
- ① 産地偽装問題・消費期限改ざん問題・薬害エイズ問題などの新聞記事と日頃購入している商品の表示ラベルやパッケージから、消費者問題が自分たちの身近にある問題であると気づくことができる。
- ② グループ討議によって、表示ラベルや新聞記事から消費者問題に関わっている立場にある者が消費者・国・企業の三者であり、その関係によって発生していることを突き止める。
- ③ 消費者問題の解決方法は、消費者・国（行政）・企業それぞれがその立場において、消費者は保護の要求や発信される情報が真実であるかどうかを見極める努力、国は法律やしくみの整備や企業の監視・監督の責務、企業は法律を守り、表示・説明・安全性の責任や義務を果たす努力が必要であることを、関連資料を参考にグループ討議により検証し発表することができる。

(4) 教材名

- ・日本書籍新社（公民的分野）
- ・ビジュアル公民－兵庫県版
- ・参考資料－新聞・表示ラベル
- ・経済企画庁 国民生活局「解説 消費者契約法」について

(5) 学習指導過程

過程	主な問い	生徒の活動・予想される発言	指導上の留意点
導入 (10)分 情報収集	「日頃どんな商品を買いますか？」 「何に注意するでしょう？」 「もしこれら表示に誤りや、偽装があればどうしますか？」 「どうなりますか？」	・おかし、衣服、ジュース、パン、弁当、花火等 ・値段、味、種類、原料、デザイン、賞味期限、サイズ等 ・怒る、返品、お腹こわす、怪我する、生命の危険等  ・社会では生命に関わる重大な問題が発生していることを理解する	・商品表示を提示（とうふ、ケーキ、花火、値札、おかし等）  ・実際の問題の新聞記事を提示（産地偽装、期限改ざん、薬害訴訟等）
課題設定	<b>こういった問題や被害はどのようにして防げるのだろうか？</b>		
予想から (15)分	「各班で予想をしてください」  「各班の代表は発表してください」	・消費者が気をつける ・企業が嘘をつかない ・企業が安全なものをつくる ・国が法やしくみをととのえる 等	・表示ラベル・新聞記事から、消費者・国・企業の動きをとらえる ・班活動で多くの予想を出させ仮説へと高める

仮説設定	<b>消費者・国・企業それぞれの立場での努力が必要ではないだろうか？</b>		
検証 (15)分	<p>「それでは資料を参考に検証していきましょう」</p> <p>「検証結果を発表してください」</p>	<p>&lt;消費者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活センターの利用</li> <li>悪質商法に注意</li> <li>表示ラベルの確認等</li> </ul> <p>&lt;行政&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法律の制定</li> <li>保護機関の設置等</li> </ul> <p>&lt;企業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製品の安全強化</li> <li>使用上の注意の明確化等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての立場での検証が困難な場合は1つに絞って検証することも考慮に入れる</li> <li>資料 p 79</li> <li>教科書 p 76, 77, 188, 198</li> <li>配布資料 「消費者契約法」について</li> </ul>
結論	<b>国がつくる法律やしきみの下、企業は商品の安全性を向上させる努力を行い、消費者は常に主権者として国や企業の動きに注意を払う努力が必要である</b>		
まとめ (10)分	<p>・板書</p> 		
新たな問いの発見	<p>「では具体的にどのような法律によって消費者が守られているか詳しく次の時間に学習したいと思います」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習として興味をもってPL法や消費者契約法など家庭の話題として話しをすることで学習を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時に学習した法律の内容を家庭で詳しく読み返すことが努力目標である</li> </ul>